



小牛田小学校

リーダー・イン・ミー通信

小牛田小学校のリーダー・イン・ミーの取組を紹介します！

令和3年9月10日 第4号

小牛田小学校ライトハウスチーム

<http://kogota-es.misato-ed.jp/>

早いものでもう9月になってしまいました。夏休み中は、フランクリン・コヴィー・エデュケーション・ジャパンの研修会をライトハウスチームが1回、全職員で1回と充実した研修を行うことができました。夏休み明けも小牛田小学校は、LIMの取り組みを進めていきます。



第6の習慣 シナジー（相乗効果）を創り出す

「三人寄れば文殊の知恵」

校長室にある広辞苑（第4版）では、「愚かな者も三人集まって相談すれば文殊菩薩のような良い知恵が出るものだ。」と書かれています。みなさんが「愚かな者」とは思いませんが、誰かと相談しているうちに一人では考えつかない素晴らしい考えに行き着いた経験ってあるのではないのでしょうか。

実は、学校は、そんな場所です。そして、私は、同年代の子供たちが一緒に集まって勉強をする意味も実はそこにあるのだと思っています。他者と一緒に学ぶことで、一人では気づけなかった考えに気づいたり、みんなで新しい考えを創り出す経験を積み重ねたりして、他者の良さや集団の良さを体感することに大きな意味があると思っています。

LIMでも「シナジー（相乗効果）を創り出す」を重視しており、第6の習慣と位置づけています。今回は、第6の習慣について書いてみます。

皆さんは、何か楽器を演奏することはできますか？何種類かの楽器を演奏することができる人もいるかも知れませんね。でも、一人でオーケストラを再現できる人はいないでしょう。多重録音を重ねれば可能かもしれませんが、同時に迫力あるオーケストラを再現できる人はいないでしょう。そうです、オーケストラがシナジーです。一人で何種類かの楽器を演奏することができても同時にオーケストラのような迫力ある音楽を奏でることはできません。これがシナジーの力です。

チームスポーツも同じです。野球、サッカー、バスケットボール、ラグビー等など。チームでやるスポーツでは、シナジーが起きる可能性があります。では、東京オリンピックでも行われた。陸上の100m走は、どうでしょうか。一人で走るの、シナジーが起きないように見えますが、決してそうではありません。その選手を支えるトレーナー、栄養士、整体師、マネージャー等、沢山の人の協力がなければ、決してスタートラインに立つことはなかったことと思います。



しかし、オーケストラ、チームスポーツなどが自然とシナジーを創り出すかということそうではありません。シナジーを作り出せない場合もあります。演奏者が、周りを見ずに自分勝手に演奏していたら、とても迫力のある美しい音楽にはならないでしょう。チームスポーツの選手が、自分の好き勝手にプレーしていたら、勝てる試合も勝つことはできないでしょう。1+1=3以上、10や100になるのがシナジーですが、自分のことだけを考えていたのでは、1+1=2にもならないことが起きてしまいます。

そこで、大切になるのは、違いを尊重する態度です。スティーブン・R・コヴィー博士は、「違いを尊重することがシナジーの本質である。人間は一人ひとり、知的、感情的、心理的にも違っている。そして違いを尊重できるようになるためには、誰もが世の中をあるがままに見ているのではなく、『自分のあるがまま』を見ているのだということに気づかななくてはならない。」と述べています。

リーダー・イン・ミー こぼれ話

先生方が話し合いで、起こしたシナジー

LIM 先進国のアメリカでは、学校においてリーダーシップ集会が広く行われています。LIM を今年度から取り組むことが決まっていたので、小牛田小学校でもリーダーシップ集会を行おうと10月に3時間の枠を確保しておきました。しかし、内容については全くの白紙でした。

担当の先生と内容を検討する会議を開くことは決めましたが、どのように話し合いを進めていったら良いのか見当が付きませんでした。そこで、第2の習慣「終わりを思い描くことから始める」を活用することとしました。「小牛田小学校のリーダーシップ集会が終わったときに子供たちにどんな思いを持ってほしいのか」について考えることから始めました。担当の先生は、次の2つを考えてくれました。「リーダー・イン・ミーを勉強してよかったな。」「もっとリーダー・イン・ミーを勉強したいな。」

全職員が集まった冒頭に小職から、「この2つの姿が私達の目指す山の頂上です。登山道は、何百通りもあるでしょう。その登山道をどう進むのか、みんなのアイデアを聞かせてください。」という話をしました。その時点で、具体的なアイデアを持っていた職員は、一人もいませんでした。

話し合いの始めは、膠着状態でした。誰もどこから手を付けていったら良いのか考え付きません。全体では、発言する人も少ないことから担当者は、2つのグループに分かれて話し合いを進めていきました。2つのグループの話し合いでは、不安ばかり、課題ばかりが話されました。10分近く職員間で不安を共有していったら、今度は「こういうのができそうだね」という前向きな話し合いになってきました。グループで話し合う予定の時間が過ぎたところで、各グループの意見を交流しました。前向きになってきたとはいえ、この時点ではまだ具体的には何も決まっていませんでした。

低学年部から「何年生が、何をするというよりも前にLIMを全児童に紹介する時間がほしい。LIMがどんなものを全児童で共有する時間がほしい。」という要望が出されました。この発言がきっかけになりました。6年担任が、「いいアイデアを思いつきました。それ、6年生にさせたいです。準備することでもっと深く7つの習慣を知ると思うし、連帯感が6年生の中に生まれると思います。」みんなが、納得しました。当初、6年生は、45分間の発表を考えていました。でも「6年生の発表を見て、どう思ったか学級で共有したいよね。」という意見が出され、発表は30分で、共有の時間をとることになりました。1回目の計画はこれでできました。

6年生が先鞭をつけてくれたことで、イメージが膨らみました。「委員会でやってはどうか。」今回のリーダーシップ集会では採用されませんでした。が、「図書まつりや給食感謝祭でLIMを取り入れていける」という前向きな話し合いにもなりました。

「6年生の発表を受けて、各学年でも取り組んでいることを紹介してはどうか。」という意見が出されました。賛成する一方で、「それが5学年続いたら子供が飽きる。」という意見も出されました。そこで、日をずらして、4・5年生が発表することになりました。(内容についても話されましたが、まだ秘密にしておきます。)やはり学級の共有の時間を設けることも確認しました。

「4～6年生の発表を見れば、1～3年生もイメージができるね。できそうだ。」ということになり、全校分のリーダーシップ集会の計画は完成しました。

アイデアがまったくなかった状態から、素敵なリーダーシップ集会の計画が出来上がりました。担当者は、「7つの習慣をやってきて、1番シナジーを感じた瞬間だった。授業でこの体験を子供に話そうと思った。これから自分が迷ったときは、一人で悩むんじゃなくて、沢山の人の意見を聞くことで、インスパイアされる言葉をもらって、それで解決していけると思ったら、ソクツとした。これがシナジーだと意識したのが初めてだった。シナジーという言葉に出会えてよかった。これからは色々な人と話したいと思った。」と感想を話していました。先生方が、話し合いでシナジーを起こした瞬間でした。

